

普及センターだより

No.122

# MISATO

発行 宮城県美里農業改良普及センター

〒987-0005 遠田郡美里町北浦字笹館5

TEL (0229) 32-3115 E-mail msnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX (0229) 32-2225 URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



農事組合法人 みらいす青生 日本農業賞大賞表彰式 (本文参照)

## 普及の窓

美里農業改良普及センター 所長 曾根 文浩

県では、本年度の施策の重点項目として、園芸トップブランドの育成や地域戦略品目の生産拡大による園芸産地の育成を掲げ、魅力ある農業・農村の実現に取り組むこととしております。

大崎東部地域の農業は、早くから「小ねぎ」「みず菜」「ほうれんそう」「トマト」「じゃがいも」などで県内有数の産地が形成されており、更なる園芸産地の拡大が期待されているところです。

当普及センターでは、地域戦略品目として「青ねぎ」の栽培技術定着や生産性向上対策をすすめるとともに、園芸作目を中心に第三者認証GAP（農業生産工程管理）の導入・定着を進めてまいります。また、園芸の担い手として、集落営農組織を発展させた法人化を誘導し、生産・経営基盤の強化を誘導してまいります。

これからも、大崎東部地域が、魅力ある農業・農村となるよう、関係機関・団体と連携しながら、地域の農業者の方々とともに園芸振興に取り組んでまいります。



※本年度、美里農業改良普及センターでは以下の4プロジェクト課題に取り組みます※

# 平成30年度プロジェクト課題紹介

## 地域農業の維持・発展に向けた 集落営農組織の法人化支援

農地中間管理事業を活用した農地集積の推進が求められており、地域の核となる経営体が必要となっています。普及センターでは集落の将来の方向性を見据え、地域農業の継承のために美里町の和多田沼営農生産組合(南郷)、中田営農生産組合(小牛田)について、次世代の農業担い手として法人化を目指していることから、その支援を引き続き行っていきます。

また、地域の農地集積を担う経営体の安定化も重要なことから、すでに法人化した経営体の生産性向上のための技術支援も併せて行っています。



## 法人経営体における第三者認証GAPの導入・定着支援

近年安全・安心な農作物への関心が高まる中、それぞれの生産工程を「みえる化」して第三者機関に審査してもらう「GAP(Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理)認証」取得が進められています。管内では、有限会社氏家農場がみずなとねぎでASIAGAP Ver.1を、有限会社マルセンファームがほうれんそうとトマトでJGAPを取得しています。また、有限会社グリーンウェーブ南郷と株式会社こうだいらプランテでは新規にGAP認証を目指しています。

普及センターでは新規に取得を目指す経営体には施設管理や書類作成などを中心とした支援を、取得後の経営体には適切な運用管理やランクアップに向けた継続支援を行うことでGAPの取得拡大と定着を進めています。



## 「金のいぶき」の導入・定着化による 地域ブランド米の確立支援

新奨励品種としてデビューした「金のいぶき」は、米の消費拡大や消費者の多様なニーズに応えるため、多様な用途に向く水稻品種として期待されており、涌谷町では平成29年度より消費者の健康志向に見合った銘柄米「金のいぶき」の導入を進めています。日本初の産金地である歴史資源を活かし、町独自に農産物のブランド化を進めており、生産体制の確立や販売促進など関係機関による連携を図りながら、現代の「金」が実る里として「金のいぶき」を地域ブランド米として定着するための支援を行います。



## 青ねぎの栽培技術定着による生産性の向上支援

青ねぎは、加工・業務用野菜として地域戦略品目に位置づけ、作付拡大を図っており、平成29年度には7団体3個人で4.3haの作付実績がありました。

また、青ねぎ集出荷施設も整備され、平成30年度からは大規模に青ねぎの周年栽培に取り組む法人も出てきました。

普及センターでは、みどりの農業協同組合と連携し、青ねぎ栽培上、問題となっている土壌病害やアザミウマ類等の病害虫対策実証ほを管内2箇所(露地、施設栽培)に設置し、病害虫の発生パターンを把握すると共に研修会等での情報提供を通し、生産者の防除技術の向上を支援し、産地化を進めています。





普及センターからのお知らせ

日本農業賞「集団組織の部」大賞受賞  
おめでとうございます!!

農事組合法人みらいす青生（美里町）が、第47回日本農業賞（主催：日本放送協会、全国農業協同組合中央会、都道府県農業協同組合中央会）「集団組織の部」で最高位となる大賞を受賞し、平成30年3月10日に東京都渋谷区のNHKホールにて授与されました。本県における日本農業賞大賞の受賞は平成22年の第40回以来、7年ぶりの栄誉でした。地区内農地の80%以上が集積された大区画ほ場には、地下水制御システム(FOEAS)が導入されており、水稲作では大型機械による乾田直播栽培の取組により省力・低コスト化が図られています。

麦、大豆についても、地下水位を設定し土壤水分をコントロールすることで、県平均を大きく上回る収量が確保されています。

また、園芸品目として導入したトウモロコシの加工販売等を行うことで女性や高齢者の活躍の場を創出していること、地域行事の運営や農道・用水路等の管理などにより地域の活性化に貢献していることも高く評価され大賞に決定されました。

「農事組合法人 みらいす青生」  
(代表理事 齋藤昌徳氏)



新たに認定された農業士の紹介

指導農業士  
平山喬博氏



- ・県内において、いち早くトルコギキョウ栽培に取り組み、現在でも最新の技術・品種の導入を図る等、経営の発展を図っています。
- ・株式会社の専務取締役として代表取締役を補佐し経営状況を常に役員内で話し合い、経営方針を決める等、優良な法人経営で地域の雇用を創出し、地域農業の発展に貢献しています。
- ・農業・園芸総合研究所の実証ほとして長年技術開発に協力し、得られた成果は県内に広く波及しています。

青年農業士  
上野健児氏



- ・美里4日クラブ員として地域の若手農業者と協力連携し、地域農業の発展に貢献しています。
- ・涌谷町内の小ネギ生産者部会の青年部長を長く努める等、産地づくりに貢献しています。
- ・単収の向上や高品質生産への栽培技術習得に積極的に取り組み、生産量の増加や安定出荷が図られており、地域の後継者育成への協力が期待されます。

収入保険制度について

平成30年7月より、「農業経営収入保険」の加入申請が始まります。

農業経営収入保険は、ほぼすべての品目を対象に、自然災害だけでなく価格低下も含めた農業収入全体の減少に備えた保険です。青色申告を行っている農業者（個人・法人）が対象となります。詳しくはお近くの農業共済組合へお問い合わせください。

加入から保険金支払いまでのスケジュール

H30		H31	H32
5月～6月	7月～11月	12月	1月～12月
	加入申請受付	保険料・積立金の納付	保険期間
	個別相談		
			保険金等の請求・支払

農業による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農業は適正に使用しましょう